

顔面神経麻痺における後療法施術

○鈴木 貴司（日本柔道整復接骨医学会分科委員会、墨田支部）

Key words：顔面神経麻痺、後療法、医療連携

我々の日常施術において、神経麻痺症状は遭遇する事のある症状かと思われる。

四肢における麻痺、橈骨神経麻痺、総腓骨神経麻痺などがあげられる。当院通院加療中の患者で今回私自身顔面神経麻痺の症例に遭遇したので報告させていただきます。

症例 80才女性 既往歴 高血圧症 生活環境 独居
症状 当院受診時僅かな右眼瞼下垂症状のみ発声障害、表情筋の麻痺症状なし

鈴木の前診 右角膜びらん症状かと 速やかに眼科医受診指導

眼科医初診 右角膜検査実施、眼科受診中麻痺症状進行。滞在時間約 40 分

眼科医より角膜異常なしと報告、顔面神経麻痺及び脳血管疾患の可能性否定できないと

相談あり、2次救急病院に搬送。2次救急病院では耳鼻咽喉科管理となり、ステロイド及び抗ウイルス薬による持続的点滴治療のため入院。入院期間 2 週間。

退院後の後療法 病院よりの指示

筋肉の萎縮防止、病的共同運動の防止を目的とする。

適切な治療を行っても後遺症が残る場合があります。

- 1 顔面筋の伸張マッサージの実施
- 2 蒸しタオルで顔を温めて血行を良くする。
- 3 必要以上に大きな顔面筋の動きはしない。病的共同運動の誘発。
- 4 低周波治療器などは使用しない。鍼治療は行わない。
- 5 目と口を一緒に動かす事は行わない。

3 から 5 は実施禁止事項。

予後について

麻痺の程度によるがベル麻痺の場合 70%程度数か月で治癒する軽症ほど予後は良好。

重症ほど予後は不良である

回復には、最低でも数か月「2 か月間以上」かかると言われております。

焦らず、ゆっくりと治療を進めることが、非常に大切なことだと思われる。

鈴木における後療法

ベット上、側臥位にてホットパックを使用し患部に温熱療

法を実施。20 分実施する。

手技療法

顔面筋伸張マッサージを実施。麻痺患部に行なう。

額の筋肉を伸ばす。横方向に、縦方向に、円を描くように、共に 2 から 3 回行なう。

頬の筋肉を伸ばす。 上記同様

口の周りの筋肉を伸ばす。上記同様

唇の上の筋肉を伸ばす。横に引っ張るように伸ばす。

唇の下の筋肉を伸ばす。上に引っ張るように伸ばす。

上記温熱療法、手技療法を一日に午前、午後の 2 回行った。

個人個人の麻痺の程度により麻痺の発症から治療開始までが 3 日以内の場合が良いとされている。

今回、麻痺発症から速やかな医療連携により治療を行えた、麻痺の後療法実施、指導管理においても患者の協力が積極的に得られた。発症より 1 か月半にて麻痺症状改善し日常生活動作も良好になり終了した。

今後も安心安全な施術を行いたいと思っている。